



## 2013年8月に読んだ本についての感想

### 『脊梁山脈』 乙川優三郎著 新潮社刊 2013

乙川優三郎という人は時代小説家とばかり思っていたが、これは珍しく現代小説。読んでよかったと思える本であった。

①時代に忘れ去られて行く伝統工芸、木地師の世界を描いて深い。木地師は木を轆轤で加工しそれを磨いて見事な椀や盆、それにこけし人形など木の工芸品を作り出す。材料に成る良い樹があることが絶対条件で、樹を求めて深い山から山へと移り住んで行く。元々が陶芸などと同じく朝鮮半島からの帰化人が持ってきた技術で現代の木地師はその子孫らしい。最初に住み着いた近江の山から、良い樹を求めて次第に信州へ、そしてさらに東北の深い山奥へと移住して行ったようだ。主人公は敗戦で中国から帰還してきた元少尉矢田部信幸。たまたま帰郷する列車で知り合ったある帰還兵との縁によって木地師の世界を知り、それに魅了されてだんだんとその世界に深く入り込んでゆく。こけしで有名な鳴子温泉に行って木地師の娘と知り合うあたりから小説は佳境に入ってゆく。

②乙川優三郎の小説には魅力的な女性が登場する。私は4年前に朝日新聞に連載された「麗しき花実」という蒔絵師を描いた小説を読んで、ひたむきで芯のしっかりした理野（りの）という主人公の娘に魅力を感じたことがある。その小説は途中で読むのをやめてしまったが、理野（りの）のことは強く印象に残っている。

今度のこの小説では、気が強くて生活力があり、鋭い感性のある東京の小料理屋の女主人佳江と、鳴子温泉の木地師の娘で温泉芸者になった薄幸の我慢強い娘多希子という2人の女性が夫々の個性で魅力的だ。

③もう一つこの小説の特異な点は、主人公信幸が朝鮮半島からの帰化人との関連もあって日本書紀の飛鳥時代の皇統譜の記述、なかんずく聖徳太子誕生前後の叙述の信憑性に強い疑問を持って真実を追究しようと思案していること。そんな歴史の虚実を考えながら、木地師たちの移動を確かめようと、奥羽山脈の人跡希な深い山の脊梁を東から西へと一人で越えて行った信幸が、ある開けた原野で連なっている野石の列を見つけたが、その野石をよく見たら、山から山へと移動して行く途中で亡くなった木地師たち家族の墓で、それは十六弁の菊花紋章を刻んだ墓石だったのだ。発見した信幸が「ぞっとした」とあるが、読んでいた私も「ぞくっと」した。木地師たちの先祖の帰化民族本来の紋章は今日本の皇室の紋章になっているのだ。

④敗戦直後の祖国日本の惨めな現実や、兵士だった男達の悩みと生き様、ゼロから立ち上がる民衆のたくましさもよく描かれている。この小説で唯一違和感を覚えたのが、主人公矢田部信幸が、たまたま成功した事業家だった叔父が病死して、莫大な遺産を継承し、暮らしに何の心配も不用な豊かさに恵まれることになったことだ。彼は働いて生計を立てる必要が無い身分となった。だから木地師たちの世界を存分に調査し、立派な研究書を出版することができたし、妊娠した多希子の墮胎の面倒を見、その後の病気の治療を支えたり、

佳江が突然に要求してくるお金の無心に何度も応じたりできたわけで、信幸が結構なご身分になったという設定は全体の流れに大きな支えになっている。

Life is much more successfully looked at from a single window, after all.

とカバーの写真にひっそりと文章が浮き出ているが、人生はあまり色々なことに気を紛らわさないで、これ、と決めた一つに絞って生きてゆけば、面白いのだ、位の意味か。（これは主人公が気を引かれた女の一人、画家で小料理屋も経営している佳江が、読んでいた米国のニック・キャラウェイの小説から引用した一行。）

### 百年文庫の3冊

#### 『釣』

井伏鱒二「白毛」ユーモラスな中に鋭い批評を含む。釣りの好きな人だとたまらないだろう1篇。

幸田露伴「幻談」ウィンパーによるスイスのマッターホルン初登頂時の事故死に関する恐ろしい幻の出現の話もあるが、主体は江戸時代の釣り船の船頭と釣り客が経験したゾットするような怪談。ともに流麗な隙のない見事な文体でうまい落語を聴いているような味がある。確かに「文豪」だ。

#### 上林暁「二閑人交友図」

上林暁とか井伏鱒二は荻窪・阿佐ヶ谷あたりに住んで文人村を形成していた。

上林暁と友人がともにお金は乏しいなかで、将棋・酒・銭湯・釣りなどをともに楽しむ悠々閑々たる交友生活の描写。こんな生活・生き方はいまや夢か。

## 8月に文庫に入った子どもの本

### 絵本

『**ぼく**のふとんはうみでできている』(ミロコマチコ作 あかね書房 2013) 『**ぼく**のはなし』『**くつがいく**』(和歌山静子さく 童心社 2013)

『**ひとりひとりのやさしさ**』(ジャクリン・ウッドソン文 E. B. ルイス絵 さくまゆみこ訳 BL 出版 2013)

『**だじゃれ日本一周**』(長谷川義史作 理論社 2013)  
『**ぼく**は弟とあるいた』(小林豊さく 岩崎書店) ※古本屋でみつけました。小林さんの中央アジアを描いたシリーズはすでに文庫に『ぼくのうつくしい村』ほか7冊入っています。

### 読み物

『**読み聞かせとんち・わらい話 50話**』(よこたきよし文 チャイルド本社 2010)

『**ハンナの学校**』(グロリア・ウィーラン作 中家多恵子訳 2012) 『**ふしぎな声のする町で**』(ほしおさなえ作 徳間書店 2013) 『**緑の精にまた会う日**』(リンダ・ニューベリー作 野の水生訳 徳間書店 2012) 『**マルカの長い旅**』(ミリヤム・プレスラー作 松永美穂訳 徳間書店 2010) 『**時の町の伝説**』(ダイアナ・ウィン・ジョーンズ作 田中薫子訳 徳間書店 2004)

♡広瀬さん寄贈本は掲載しませんが、絵本の部屋の棚に別置き追加を並べています♡

## 8月に文庫に入った新しい大人の本

### フィクション

『**ホテルローヤル**』(桜木紫乃著 集英社 2013) ※直木賞 『**爪と目**』(藤野可織著 新潮社 2013) ※芥川賞 『**祭の日**』(北原亞以子著 新潮社 2013) ※遺稿 『**水のかたち 上・下**』(宮本輝著 集英社 2012) 『**何者**』(朝井リョウ著 新潮社 2012) ※request 『**ああ父よああ母よ 1945-1970**』(加賀乙彦著 講談社 2013) 『**ヘミングウェイの妻**』(ポーラ・マクレイン著 高見浩訳 新潮社 2013) 『**王様ゲーム 再生 9.19**』(金沢伸明著 双葉社 2013)

### エッセイほか

『**文士の友情**』(安岡章太郎著 新潮社 2013)  
『**子どもの世紀**』(神宮輝夫ほか編著 ミネルヴァ書房 2013)

### ノンフィクション

『**メルトダウン連鎖の真相**』(NHKスペシャル「メルトダウン」取材班著 講談社 2013) 『**永続敗戦論**』(白井聡著 太田出版 2013) 『**人口減少社会という希望**』(広井良典著 朝日新聞出版 2013) ※3冊 request 『**中国人の本性**』(副島隆彦、石平著 李白社 2013) 『**石牟礼道子—魂の言葉、いのちの海**』(河出書房新社 2013) ※request 『**死の淵を見た男**』(角田隆将著 PHP 研究所 2013) 『**宮本常一 旅する民俗学者**』

(佐野真一責任編集 河出書房新社 2013 増補新訂)  
『**はだしのゲン 私の遺書**』(中沢啓治著 朝日学生新聞社 2012) ※漫画『**はだしのげん 10巻**』も入れました。併せてどうぞ。 『**素顔の新美南吉**』(斎藤卓志著 風媒社 2013)

『**マチュピチュ探検記**』(マーク・アダムス著 森夏樹訳 青土者 2013) 『**子どもの世紀**』(神宮輝夫他編著 ミネルヴァ書房 2013) 『**耕せど耕せど**』(伊藤礼著 東海教育研究所 2013)

### 文庫

『**海へ、山へ、森へ、町へ**』(小川糸著 幻冬舎文庫 2013) 『**るり姉**』(椰月美智子著 双葉文庫 2012) ※request 『**嫌な女**』(桂望実著 光文社文庫 2013) 『**天国旅行**』(三浦しをん著 新潮文庫 2013) 『**生存確率**』(久間十義著 新潮文庫 2013) 『**零戦**』(堀越二郎著 角川文庫 2012) 『**半藤一利と宮崎駿の腰抜け愛国談義**』(文春文庫 2013) 『**読み解き「般若心経**』(伊藤比呂美著 朝日文庫 2013)

.....



海の日のおはなし会が終わって日が暮れて  
出演者たち 13.7.14  
伊豆高原駅・樹齢130年の楠の大木の下

## 8月のコーナー

★直接的、間接的に戦争のなかにいた子ども、若者たちの本。小学高学年からおとなまで読んでほしい本。

『えほん 日本国憲法』(野村まり子絵・文 明石書店)  
『くつがいく』(和歌山静子さく 童心社) 『ぼくのこえがきこえますか』(田島征三さく 童心社) 『はらっぱ』(神戸光男校正・文 西村繁男画 童心社) 『せかいいいちうつくしいぼくの村』ほか(小林豊さく ポプラ社) 『おとうさんのちず』(ユリ・シュルヴィッツさく あすな書房) 『なぜ戦争はよくないか』(アリス・ウォーカー文 ステファノー・ヴィタル穢 偕成社) 『さがしています』(アーサー・ピナード作 岡倉禎志写真 童心社) ※以上絵本。

『イングリッシュローズの庭で』(M.. マゴリアン作 徳間書店) 『猫の帰還』(ロバート・ウェストール作 徳間書店) 『水深五尋』(ロバート・ウェストール作 岩波書店) 『ぼくの心の間の声』(ロバート・コーミア作 徳間書店) 『戦火の馬』(マイケル・モーバーゴ作 評論社) 『兵士ピープル』(マイケル・モーバーゴ作 評論社) 『ミスター・ピップ』(ロイド・ジョーンズ作 白水社) 『ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか?』(アレン・ネルソン作 講談社)

『海の島 ステッフィとネッリの物語』睡蓮の池 ステッフィとネッリの物語 『海の深みへ ステッフィとネッリの物語』 『大海の光 ステッフィとネッリの物語』(アニカ・トール作 新宿書房)

『壁のむこうから来た男』(U. オルレブ作 岩波書店) 『ヒトラーのむすめ』(ジャッキー・フレンチ作 すずき出版) 『エーディト、ここなら安全よ』(キャシー・ケイサー作 ポプラ社) 『ジャック・デロシュの日記』(ジャン・モラ作 岩崎書店) 『アンネの日記』(アンネ・フランク著 文芸春秋) 『ちいさな命がくれた勇氣』(キャシー・ケイサー著 主婦の友社) 『アウシュヴィッツでおきたこと』(マックス・マンハイヤー作 角川学習出版) 『彼の名はヤン』(コルシュノフ著 徳間書店) 『わたしは忘れない』(ヤエル・ハッサン作 文研出版) 『あのころはフリードリヒがいた』(リヒター

作 岩波少年文庫) 『最後の授業』(ドーデ作 岩波少年文庫)

『八月の光』(朽木祥作 偕成社) 『はだしのゲン全10巻』(中沢啓治作 汐文社) 『はだしのゲン わたしの遺書』(中沢啓治著 朝日学生新聞社) 『ぼくは、いつでもぼくだった。』(いっこく堂 くもん出版) ※沖縄に生まれて…。『夕風の街 桜の国』(こうの史代さく 双葉社)

『語りつぐ戦争 平和について考える全6巻』(国土社)

★大人に・・・

『戦争はなぜ起こるか』(佐藤忠男著 ポプラ社)

『零戦』(堀越二郎著 角川文庫)

『9条どうでしょう』(内田樹、小田嶋隆ほか著 ちくま文庫)

『民主と愛国 戦後日本のナショナリズム』(小熊英二著 新曜社)

『歴史が後ずさりするとき』(ウンベルト・エーコ著 岩波書店) 『ヒトラーの秘密図書館』(ティモシー・ライバック著 文藝春秋)

『大東亜戦争の実相』(瀬島隆三著 PHP研究所)

『収容所から来た遺書』(辺見じゅん著 文藝春秋)

『指揮官たちの特攻』(城山三郎著 新潮社)

『散るぞ悲しき』(梯久美子著 新潮社)

『昭和二十年夏、子供たちが見た日本』 『昭和二十年夏、僕は兵士だった』(梯久美子著 角川書店)

『終わらざる夏 上・下』(浅田次郎著 集英社)

『白バラの声』(ハンス/ゾフィー・ショル著 インゲ・イエンス編 新曜社) ※ショル兄妹の手紙 『ゾフィー21歳』(ヘルマン・フィンケ著 草風館) ※ヒトラーに抗した白いバラ

『夜と霧 新版』(ヴィクトール・フランクル著 みすず書房)

『和解のために』(朴裕河著 平凡社) ※教科書・慰安婦・靖国・独島 『わたしは日本軍「慰安婦」だった』(李容洙、高柳美知子著 新日本出版社)

『中国軍三〇〇万人、次の戦争』(相馬勝著 講談社)

『書かれなかった戦争論』(山中恒・典子著 辺境社)

『少年H 上・下』(妹尾河童著 講談社文庫)

『真実の満州史1894-1956』(宮脇淳子著 ビジネス社)

『「東京裁判」を読む』(半藤一利、保坂正康、井上亮著) 『戦争特派員』(ニコラス・ランキン著 中央公論新社) ※ゲルニカ爆撃を伝えた男

『イラクの中心でバカとさけぶ』(橋田信介著 アスコム) 『ラオスからの生還』(ディーター・デングラー著 大日本海が)

★これらはスタッフがちょっと探し出した在庫のほんの一部です。手にとって、ページをめくってみてください。

※福島原発関係の本は、東北地震コーナーにあります。

## 伊豆高原だより

こんなおはなしを聞きました。

ある日、犬を散歩に連れて出た夫が、携帯電話を付けてきた。急いで、こねこ用のたべものを持って桜の里駐車場に来てくれ!

話を聞くと、やっと目が開いて動き出したこねこ5匹が捨てられていると言う。とるものも取りあえず、現場に行くと……。この数日、下田からえさを運んできたというカップルに出会った。数ヶ月前、4匹の我が家のねこを次々に亡くした私にとって、もう悲しい思いはしたくなかったが、それでも3匹を引き取り、2匹は下田のやさしいカップルにお願いした。

特筆したいのは、犬が何とこねこを見た途端に、他者からこねこを守ろうと母性本能を発揮しはじめたことであった。でも家ではもう飼えない。幸いにも、うちで預かったこねこは、里親がみつかってめでたく養子に行くことができた。

なんと、よい話でしょう、やさしい人たちでしょう。下田の若者も、そして大室の住人も。

(さ・らのひとりごと)

